

ID=12900

'16.4.27

2015年度開講科目

調査実習概要報告書

1/1

2016年4月19日

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (Eメールアドレス)	
(ふりがな)	ともざわ かずお 友澤 和夫 ほか3名		
進行指導者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	にしむら たけお 西村 雄介	広島大学文学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地理学野外演習 地理学野外実験	HRMa-081301-2/15/302-2 HRMa-081404-2/15/301-2	8 (社会調査士資格を希望している者 で単位を取得したものは1名)	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：「地理学野外演習」で学生各自が計画したテーマにそって、「地理学野外実験」にて現地で調査実習を行い、それを報告書にまとめるという形で実施した。卒業論文のいわば練習としての位置づけがある。現地では、とくにインタビューを主体とした調査を実行したが、先方への事前の連絡や当日の訪問も学生個人が行い、教員はそのための相談役・アドバイザー役に終始した。報告書は教員のチェックを経た内容となっている。2015年度は沖縄県で実施したが、受講した学生はいずれも真面目に取り組み、まずまずの成果を得ることができたと評価している。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：琉球絣の伝統生と生産構造
2. 調査の内容/概要：沖縄県の地場産業である琉球絣に着目し、その伝統性と生産構造をヒアリング調査に基づき明らかにする。
3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：質的調査に依拠した。琉球絣産地の全体像については産地組合・町役場に対して訪問調査を実施した。また、直接の担い手として工房・関連業者7社に対してインタビュー調査を行った。
4. 主な調査項目：産地や企業の歴史、取り扱い品目の変化、生産システムの特徴、販売先、産地としての特徴、伝統観など。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：現地でのインタビュー調査、各種資料の収集による。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2015.6.22から6.25にかけて実施した。調査地は沖縄県南風原町であり、学生1名 (三宅瞳) が実施した。
7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：本調査では工房等へのインタビューを主とした質的調査である。事前に調査項目を先方に送付しており、現地調査では質的に高い情報が入手できたと評価する。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：学生が調査により収集したデータと、既存文献や統計類を組み合わせて分析・解釈する方法をとった。
9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：生産者による琉球絣の伝統性の解釈の違いが各工房の生産形態に影響を与えていることが明らかとなった。すなわち、受け継がれてきた伝統を遵守することで産地の発展を図ろうとする工房と、伝統を踏まえた上で現代のニーズに柔軟に対応し、さらに商業的視点から産地の発展を図ろうとする工房が混在し、互いの価値観に疑問を抱えつつ、個々の生産体制が確立している。
10. 報告書刊行の予定と概要：報告書は既に作成済みである。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/」)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。